



日本医療機能評価機構認定病院

那珂川病院だより

病院理念 — 思いやりそして努力 奉仕そしてよろこび

VOL.67 平成29年9月

〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17

TEL.092-565-3531(代)

FAX.092-566-6460



<http://www.nakagawa-hp.com>
(携帯電話でもご覧いただけます)

一粒の種の未来へ祈りを込めて

社会医療法人喜悦会 会長 井上史子

平成29年5月31日に開催されました喜悦会理事会に於いて、理事の皆様全員の御承諾を得る事が出来ましたので、私井上史子は社会医療法人喜悦会の理事長職を退任させていただきました。故井上繁孝逝去以来32年間に亘る長い理事長在任期間の間に、皆様より賜りました数々の御厚情に深く感謝申し上げます。後任の理事長職は下川敏弘院長に引き継いでいただく事になりましたので、私同様どうぞ宜しくご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。私は会長という形で病院にとどまらせていただきますが、第一線から退いた形で引き続き那珂川病院の発展を見守っていきたいと思って居ります。

いま改めて昔を思い起こしてみると、亡き夫井上繁孝が筑紫郡安徳村松ノ木の診療所から福岡市南区野多目の地へ病院移転を計画したのは、彼がまだ30歳になったばかりの時でした。昭和39年の秋の夕ぐれ、国道385号線を横切って新築したばかりの病院全体が見渡せる地点まで2人で行った時、繁孝が「雪が降って来たら病院に布団をかぶせようごたる、、、ね」と呟いたのが今も昨日のことのように思い出されます。

莫大な借金をして、少数の従業員と院長1名だけでの期待と不安が入り混じった第一歩でした。「従業員は俺の宝だ」と言いながら繁孝がこの野多目の地に蒔いた一粒の種は、皆様のお力添えのお蔭で繁孝を中心に健やかに育ちあがっていくかに思えました。が、しかし野多目の地で病院建設のための地鎮祭をした昭和38年4月26日からきっ

り22年が経過した昭和60年4月26日、繁孝は食道静脈瘤破裂に引き続いて発症した肝不全のため、帰らぬ人となってしまいました。



理事長職は私が引き継がせていただきましたが、川辺一寛副院長（昭和54年副院長として那珂川病院に入職、平成3年3月5日ご逝去）が昭和60年の1年間、副院長のまま頑張っていただき、そして昭和61年4月からは木村専太郎先生に院長を引き受けさせていただきました。木村先生の卓越した指導力と従業員の皆様の頑張りのお蔭で病院は順調に発展を遂げ、地域の中核病院としての地位を確立するに至りました。平成13年からは下川敏弘院長が引き継ぎ現在に至っております。

社会医療法人喜悦会は救急病院として福岡市南区向新町の本院のほかに、筑紫野市二日市にちくし那珂川病院、南区柳瀬にデイサービスセンター清和、那珂川町片縄にオレンジハウス清和（住宅型有料老人ホーム）、那珂川病院の隣接地に在宅支援センターという5つの施設を運営しております。

今後も誠実で力強い新理事長の下で「病者に寄り添った、地域の人々に愛される病院・施設」として発展していただきたいと思っております。これが理事長退任に当たっての私の希望であり祈りであります。

皆様今後とも宜しくお願い申し上げます

緩和ケアだより

緩和ケアでの管理栄養士の役割とは…

管理栄養士 林田 由美子



緩和ケア病棟の患者さんにとって、“食事”に対する思いは千差万別です。

『食べたいものを、食べたい時に、食べたい分だけ食べる』

今まで当たり前に出来ていたことが出来なくなってきた時、必要となる食事への配慮や個人的な対応について、ご本人やご家族の思いに耳を傾けながら関わるよう努めています。また時には、食べたくない思いを尊重することが必要な場合もあります。

私達、管理栄養士の緩和ケア病棟における役割とは、患者さんにとって“食事”的持つ意義を理解し、それにあわせた食事提供ができるように努めることだと考えています。たとえ食事

の形態を変化させないといけないような場合でも、その見た目を工夫することで患者さんの喜びや意欲向上に繋げることが出来ればと考えます。

そのためにも、日頃から患者さんご本人やそれを支えるご家族、また日常的にお世話をする看護師からの情報を得ることや主治医の意向など、日常的にコミュニケーションをとりながら過ごすように心がけています。

提供したお食事を喜んで頂けたのを確認出来た時が、私達管理栄養士のやりがいに繋がっています。これからも様々な工夫やアイデアで、どなたにも喜んで頂けるような食事づくりを目指していきます。



記念日には
こんな事も

食べたいと思うものだけを
提供する場合もあります



記念日には
こんな事も

食べられる形態が
限られていても、
見た目にはこだわります



ボランティアだより

緩和ケア病棟では、開設当初より沢山のボランティアさんに関わっていただいています。現在の登録は40名程度、活動状況は様々で、趣味・特技を活かして活動される方や、当院の緩和ケア病棟でご家族を亡くされたご遺族の方など、色々な形で活動下さっています。

緩和ケア病棟では、医師・看護師・薬剤師・栄養

士はもちろん、心理士や音楽療法士・社会福祉士など、あらゆる職種のスタッフがチームとなり、患者さん・ご家族をサポートしており、ボランティアさんも大切なチームの一員です。外出する機会が少ない入院患者さんにとって、ボランティアさんは外からのここちよい風を運んで下さる大切な存在です。

ボランティア活動内容

- ▶環境整備・喫茶コーナー・季節の行事のお手伝い
- ▶散歩・買い物の付き添い・園芸
- ▶趣味・特技(楽器の演奏・コーラス・絵手紙)を活かした活動

など

ボランティアスタッフは随時募集しております。興味のある方、お気軽にご連絡ください。

お問合わせ先:ボランティアコーディネーター 山下 公子

緩和ケア病棟基本方針

- 1.患者さん、ご家族に寄り添い、信頼される質の高いケアを提供する。
- 2.スタッフ一人一人が役割を自覚し、個々の良さを充分発揮できる。
- 3.チームが連携をとり、助け合い、認め合い、共に考える環境をつくる。

緩和ケア病棟目標

- 1.患者さんに苦痛がなく、持てる力を信じ、発揮できるようサポートする。
- 2.患者さん、ご家族の思いに心を傾け、寄り添う。
- 3.患者さんの生活環境への気配りをし、人生の振り返りができる状態を整える。

病棟イベント クリスマス会



皮膚疾患で
お悩みの方へ

スキンケア化粧品のご紹介

人工透析・血管外科 行實 崇

自己紹介

平成28年11月より、社会医療法人喜悦会 那珂川病院に勤務している行實崇です。

昭和58年に医師となり、九州大学医学部第二外科に入局してから、約30年間、血管外科を専門に取り組み、その延長で現在は、透析患者さんの血液透析管理とシャント手術を専門的に多く取り組んでいます。

血液透析患者さんの多くは皮膚の痒みに悩んでおり、15年前より皮膚の痒みに対して診療と治療に取り組み、それによって医療的治療に加えて、スキンケア化粧品を開発・監修し、これらのコンビネーションによって、臨床において良好な効果を得ることができました。この延長線上で、透析患者さんと同じような乾燥肌で痒みのあるアトピー性皮膚炎の患者さんの治療にも約10年以上取り組んできました。

きっかけと出会い

きっかけは、平成16年（今から、13年前）に当時の勤務先の女性透析患者さんから、「私たちはただでさえ全身が痒いのに化粧をすると更に顔が痒くなるし、肌がただれる！ 自分たちに合う良い化粧品は無いですか？」と言われ、私は知らないので「調べてみます」と返事をしました。

自宅にもどり、メイクアップアーチストの家内に相談しようと思い、家内に話すと、「そうなの、ふーん！ よくわからないけど、私も敏感肌で、化粧品には気を使うの！」と言われ、「最近はエンビロンのスキンケア化粧品がとってもいいのよ！」と言われ、何じゃ？ それは？ さらに、家内が、「友人の子供がアトピー性皮膚炎苦しんでいるけど、相談に乗って？」

俺の専門外じゃー！ と言いながら、あれ？ アトピーは乾燥肌で痒い、透析患者さんも乾燥肌で痒い、一緒かな？ よし、エンビロンと肌について調べよう！

まずは、エンビロンとは何じゃい？ と思い、エンビロンのホームページを探して、見つけて、そこにアクセスしてメールしました。いきなり、「透析患者に使いたいので協力してください！」とメールしました。

その後、運よく、返事があり、協力が決まりました。ただし、エンビロン社の化粧品にはビタミンAが配合してあり、慢性腎不全患者さんには経口投与禁忌、では、透析患者さんへの肌の変化は？ 安全性は？ これらについての臨床データーは何もない！ しかたない、自分で調べることになりました。

そして、6人の女性患者さんに協力してもらい臨床データーを

得てびっくり！ 効果あり！

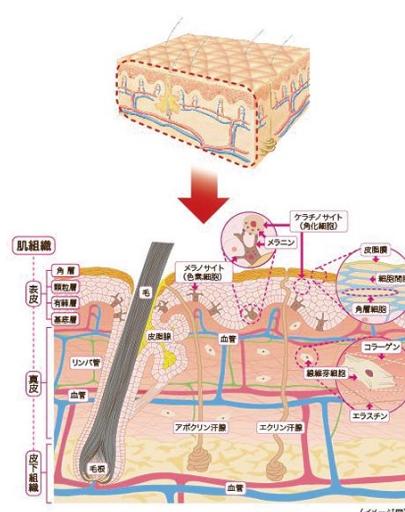
たまたま、平成17年に他の仕事で東京に行ったときに、エンビロン社を訪問したら、偶然、外国人のおじさんと会い、慢性腎不全患者さんの皮膚とアトピー性皮膚炎について話すとそのおじさんから協力しようと言われました。この方こそ、当時の世界で皮膚科・形成外科分野では有名なDr. フェルナンデスでした。

BSCシリーズスキンケア化粧品の開発

その後、家内の方はこのエンビロン化粧品を取り扱うメイクアップアーチスト、エスティシャンとして仕事をしながら、私は皮膚について勉強し、同時にエンビロン社製品や他の多くのスキンケア化粧品の成分について研究し、血液透析患者さんの乾燥肌、痒みによる皮膚炎、乾燥性敏感肌に対するスキンケア化粧品を開発・監修・研究を行い、平成20年にBSCシリーズスキンケア化粧品を作り、このスキンケア化粧品を臨床に用いて検証・研究し、臨床にてこのスキンケア化粧品を用いた治療方法で良好な結果と成績を得て、多くの臨床学会報告を行いました。

このスキンケア化粧品を作ったおかげで血液透析患者さんのトラブル肌以外に、外来にてアトピー性皮膚炎の治療にも用いて良好な結果を得ております。

皮膚の構造：正常な皮膚と乾燥肌



肌（皮膚）は、人の体全体を包む臓器です。肌は、ふだん私たちが触れている外側から順に、「表皮」「真皮」「皮下組織」の層状の構造をしています。また、それらの中に「血管」「リンパ管」や神経系、「皮脂腺」「汗腺」などの付属器があり、それぞれがかわいいながら機能しています。

これが肌（皮膚）の正常な構造です。

肌（皮膚）の働きは、人の体の表面を覆って、内部の大切な器官や臓器を守り、体温を調節し、体の水分・体液などが失われないようにするなど、体を正常な状態に保つうえでとても大切な働きをしています。肌には、具体的には次のような働きがあります。

- ① 体の内と外を分け、外部からの刺激（紫外線、乾燥、ほこりなど）から体内的水分や諸器官を守る [バリア機能]。
- ② 皮脂や汗を分泌して老廃物を排出する [分泌・排出機能]。
- ③ 表皮や毛穴を通して外界から薬剤などを吸収する [経皮吸収機能]。
- ④ 外部の温度を伝わりにくくすると同時に、体温を一定に保つよう調節する [体温調節機能]。
- ⑤ 複数の感覚器が、触・圧・痛・温・冷などの外界の刺激を脳に伝える [感覚機能]。
- ⑥ 侵入した異物や細菌などを排除して、体を守る [免疫機能]。

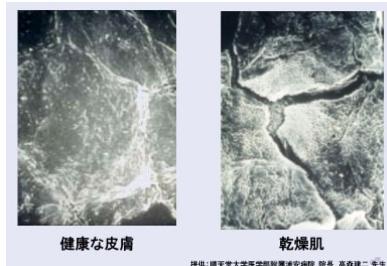
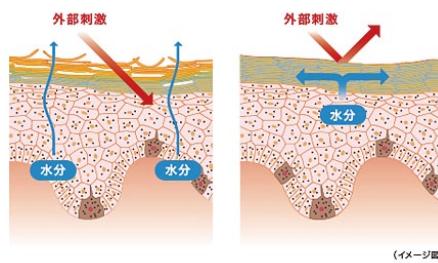
では、乾燥性敏感肌は？

乾燥性敏感肌とは、環境（気温・湿度）変化などにより乾燥状態になっていて、**外部刺激**（気温の変化・乾燥・ダニ・ハウスダスト・雑菌など）に対する感受性が高くなりがちな状態の肌のことです。そのような状態の肌では、うるおいを保つ機能の低下だけではなく、バリア機能の低下や、外部刺激に対しての敏感さが認められます。なお、「乾燥性敏感肌」は、皮膚疾患の状態ではありません。人は日常、さまざまな**外部刺激**にさらされて生活していますが、健康な状態を保っていられるのは、体をおおう肌がその刺激をブロックするバリアのような働き（バリア機能）をするからです。しかし、肌のバリア機能が低下していると、外部の刺激が肌に侵入しやすくなり、また、体の水分も蒸散しやすくなります。乾燥性敏感肌では、肌につっぱり感、カサつきなどを感じたり、肌が環境や触れるものに敏感になったり、化粧品を変えたりします。

下に示すのは、健康な皮膚と乾燥肌の角層の電子顕微鏡写真です。

正常な皮膚では、皮膚の一番外側の角層と呼ばれる部分は「れんがの堀」のような構造をしており、外界の刺激から体を守ると同時に、体内の水分が外に漏れ出るのを防ぐバリア機能の役目を果たしています。

乾燥肌になると、**レンガ構造が崩れ、バリア機能が低下**します。



提供：慶應義塾大学医学部附属病院 医長 高森達二先生

臨床経験

この血液透析患者さんは、長く乾燥肌にて、全身の痒みに苦しんでいました。

特に右ひじ関節部の皮膚が痒みにて搔くことによって皮膚に炎症と色素沈着を生じていましたが、BSC（ビシュスキンコントロール）化粧品を用いた治療にて約1年後には完全に治癒した症例です。



ビシュスキンコントロール化粧品使用症例



ビシュスキンコントロール化粧品使用症例

次の症例は、血液透析患者さんで全身に痒みを伴う、色素沈着を伴う痒疹が出来ていて、いつも痒みを訴えていましたが、BSC化粧品を用いた治療にて約1年後には痒みは消失し、治癒した症例です。

治療前

治療後1ヶ月目

治療後13ヶ月目

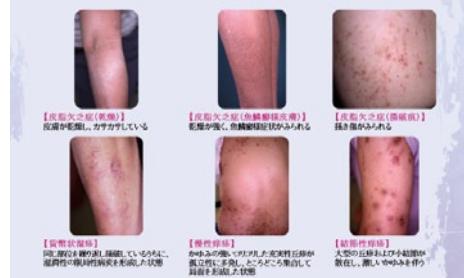
（学会報告症例）

まとめ

乾燥性敏感肌の痒みに対しては、スキンケア化粧品や保湿剤を塗って皮膚の乾燥を防ぐ乾燥性敏感肌対策が基本です。保湿剤やスキンケア化粧品だけではよくならず、痒みがひどい場合には、痒みを抑えるために抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬の内服や軟膏の塗布を行います。

しかし、乾燥性敏感肌が悪化し湿疹、化膿疹、膨隆疹などができる場合には、炎症を抑えるためにステロイド外用剤を使用します。ただし、ステロイド外用剤は、同じ部位に長期間使用し続けると副作用があらわれることががあるので、はじめに十分な強さと量のステロイド外用剤を使って、短期間で炎症を抑えることが大切です。

乾燥肌の代表的皮膚症状



乾燥性敏感肌やアトピー性皮膚炎でお悩みの方や、スキンケア化粧品のBSCシリーズにご興味のある方は、那珂川病院外来までお電話ください。

部署紹介

臨床検査部

臨床検査技師 甲斐 早智

臨床検査部（臨床検査技師）は、直接患者さんなどに接する機会の少ない部門（職種）です。

臨床検査とは、患者さんの身体の状態や病気の原因・重症度や緊急性、治療効果など評価するために、身体や臓器の「動き」を調べることをいい、その臨床検査を行う専門の技術者が、臨床検査技師です。

臨床検査の中には、検体検査と生理機能検査（生体検査）があります。検体検査は、患者さんの血液・尿・その他の検体を用いて検査を行い、貧血の有無・肝機能・脂肪代謝の評価・糖尿病の有無などがわかります。また、輸血検査も我々の仕事の1つで、血液型・また輸血する血液が患者さんと適合するか否かの検査も行っています。

患者さんの目に触れないところで、正確に・迅速に結果を出して、診断などに役立つよう努力しております。また、正確な結果を提供するために、精度管理などを行うのも仕事の1つです。平成28年度、日本医師会の精度管理において満点を取得いたしました。



唯一、患者さんと接するのは生理機能検査です。患者さんの身体からの直接情報を記録して、身体の状態を検査します。心電図・超音波検査などが身近な検査ではないでしょうか？他にも、いろいろな機器を使用して、身体の状態を検査しています。

今年の7月より、超音波検査診断装置が新しく更新されました。今までの装置に比べ、性能も向上し、腹部・心臓のみならず、表在・血管などまで、高い診断機能を有しており、高精細画像の提供ができるようになりました。優れた機能をコンパクトなボディにまとめ、機動力を活かし病棟・手術室などの使用も簡易となりました。

現在の医療は、医師・看護師・専門職（検査・放射線・薬剤師・栄養士・理学・作業療法士など）の専門性を活かし、患者さんの状況に合わせ、最善の医療を提供することを目的としたチーム医療が中心で、その一員として、積極的に参加してまいります。

『那珂川病院 夏祭り 2017』を終えて

夏祭り実行委員長 齊田 光



今年は7月26日(水)に17年ぶりとなる百道浜での花火大会（シーサイドももち花火ファンタジア）、8月1日(火)には毎年恒例の西日本大豪花火大会がありましたが、その間の週末に2年に1回開催している『那珂川病院 夏祭り 2017』を開催いたしました。

那珂川病院創立50周年を記念して2009年に始まつたお祭りで、今年は第5回となりました。実行委員長をされていたお祭り好きのK・Y先生(空気読めないではありませんよ)が病院当直を担当されることになり、急遽私が実行委員長を拝命いたしました。6月中旬から実行委員会が始動しましたが5回目ともなればmemberの皆さんには慣れたもので、あれよあれよと準備も進み私はただ従うのみでした。

当日は天気の心配はなく、あまりの快晴に熱中症の心配をするほどでした。15時30分にビール売り場でビールを注ぐ練習を兼ねてみんなで集合して気合を入れた後に準備を開始。暑い中、机や椅子を運んで準備

してくれた営繕さん、警備をしてくれたリハビリ、医事課、事務課の男性職員、模擬店の準備をしてくれた病棟看護師さん、ふわふわやスーパーボールを担当したりハビリの女性陣、初出品のたこ焼きや冷やし大学イモに対応してくれた栄養部など、本当に病院スタッフの皆さんに感謝いたします。

17時に院長のご挨拶をいただいた後、私の合図のち、ご存知「ミッドリバー」のミニライブで幕を開け、音楽療法士の大部綾子さん、謎のガールズバンド「ナース・ウインド・アンド・ファイアー」、そのあとは那珂川出身の美人演歌歌手『那珂川仁美』さんのライブなど目白押しで地域の皆さんにも楽しんでいただけたと思います。お待ちかねの大抽選会もステージ前に陣取ったちびっ子たちのおかげもあり、大盛況でした。

次はまた2年後ですが、この夏祭りを通じて地域の皆さんとの懸け橋となり、親しみやすい那珂川病院となれば幸いです。

那珂川病院だより
(平成29年9月号)
VOL.67
発行
那珂川病院
編集
日経メディアカル開発



【交通】西鉄バス系統番号4番・47番・62番・620番「那珂川病院前」下車すぐ ■駐車場150台

常勤医師診療担当表

平成29年9月1日現在

医師名	担当領域
下川 敏弘(院長)	外科・呼吸器外科
大内田 敏行(副院長)	放射線科
吉村 寛志(副院長)	外科・消化器外科
古賀 健資	外科・健診科
古賀 善彦	外科・リハビリテーション科
高松 祐治	外科・消化器外科・甲状腺科
井上 彰子	外科・麻酔科
齊田 光	整形外科
竹内 一馬	血管外科・循環器内科
行實 崇	人工透析・血管外科・皮膚科
中本 守人	脳神経外科
筒井 伸一	内科・消化器内科
安藤 智恵	内科・循環器内科
藤澤 正寿	内科・腎臓内科・人工透析
立元 貴	総合内科・糖尿病内科
大国 貴史	緩和医療・外科・漢方内科
月江 敦昭	緩和医療・循環器内科
竹中 理	緩和医療